

様式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成30年度）

所属研究機関名称		大妻女子大学	機関番号	32604
研究 代表者	部局	文学部		
	職	教授		
	氏名	福島 みどり（天野みどり）		

1. 研究種目名 基盤研究(C)(一般) 2. 課題番号 16K02735

3. 研究課題名 現代日本語の自他に関する構文的研究

4. 補助事業期間 平成28年度～令和元年度

5. 研究実績の概要

本研究の目的は「構文」に関する文法的知識が実際に使用される文の生成・解釈において重要な役割を果たすことを、現代日本語の自他構文を例にして明らかにすることである。

本年度は、接続助詞的な意味を表す「のが」と「のを」を持つ文を、自動詞構文・他動詞構文からの拡張と位置付け、それぞれ自動詞構文・他動詞構文の基本的な意味をどのように受け継いでいるか、どこまで元の意味を失っているかを詳細に検討した。

その結果、「のが」「のを」は、状態変遷性を表す自動詞構文の主格・対抗動作性を表す他動詞構文の目的格という格助詞の意味から、二つの事態を「逆接」「対比」の意味でつなぐものへと拡張した実例が見いだせるものの、拡張するにつれ（自動詞構文・他動詞構文の特徴が失われるにつれ）許容度は下がり、動的事象の変化の解釈が得られない状況での「逆接」「対比」用法は受け入れがたいことが明らかになった。

この拡張の結果としての逸脱的な「のが」の文と「のを」の文の意味は接近しているが、「のを」の文が「のが」の文に近づく関係にあることも明らかにした。

「のが」「のを」を用いて動的事態変化ではない、「対比」を表す場合、発話者は自動詞構文・他動詞構文の構文の意味である「変化」の意味を、《対比する》という思考のプロセスに写像して表現したものと考えられ、「に対して」などの表す「対比」とは意味が異なることを明らかにした。「逆接」や「対比」の意味そのものが発話者の主観と言われるが、その「逆接」「対比」を、自動詞構文・他動詞構文の持つ構文の意味を鋳型として主体的に捉え表現するという意味でも、「のが」「のを」文の「逆接」「対比」は主観的であると言える。

6. キーワード

構文 のが のを 自動詞構文 他動詞構文 意味拡張 接続助詞的 逸脱

7. 現在までの進捗状況

区分 (2) おおむね順調に進展している。

理由
本研究の中心である、自動詞構文・他動詞構文の構文の意味の考察として「のが」「のを」の文の考察を深めることができた。収集した実例に基づく考察の他、逸脱の特徴を持つ例に関する許容度調査も行い、自動詞構文・他動詞構文の構文的知識の重要性を論じる基盤が整えられた。

1 版

8. 今後の研究の推進方策

構文に関する知識により、逸脱文の生成や解釈がなされていることを明らかにするため、これまでは逸脱文の実例の持つ構文的特徴の残存の分析や、構文的特徴の濃淡に対する母語話者の許容度の変化を調査してきた。特に、後者については、構文的知識を持っていることを前提とし日本語母語話者への調査のみをしてきたが、その比較として、非母語話者の許容度調査等も行う予定である。

補足調査の分析も加え、現代日本語の自動詞構文・他動詞構文の拡張としての、接続助詞的な「のが」「のを」の文の意味生成・解釈に構文的知識が有用に働いていることを最終的にまとめていく予定である。

9. 次年度使用が生じた理由と使用計画

本年度、構文の意味の拡がりに関する言語学研究会を開催したが、発表者に対する謝金や交通費が発生しなかった（発表者が他の用務と合わせ来校したため）。

次年度行う、成果発表のための研究発表、著作・論文発表の費用として、次年度使用額を有効利用する。

10. 研究発表（平成30年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 天野みどり	4. 巻 51
2. 論文標題 接続助詞的ノヲとノガの接近に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大妻女子大学紀要 - 文系 -	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野みどり	4. 巻 50
2. 論文標題 逸脱的ノヲ文の 他動性 と 対比性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大妻国文	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 天野みどり
2. 発表標題 接続助詞的ノヲとノガの接近
3. 学会等名 CAJLE (Canadian Association for Japanese Language Education) 2018 年次大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

1 1. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件 / うち取得0件）

1 2. 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

1 3. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

1 4. 備考

-